

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人信州大学

1 全体評価

信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切に、総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材の育成、独創的研究の学際的推進、地域・社会の発展に貢献することを目指している。第3期中期目標期間においては、先鋭領域融合研究群を中心に世界的な教育研究を行い、多分野にわたる全国的な教育研究拠点としての活動を行うとともに、地域に分散するキャンパスの強みを生かし、地域活性化の中核拠点となること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、信州における価値ある地域資源の共有化を図り、新たな知識化・発信を通して、地域住民の学びを豊かにし、地域創生につなげていく方策について語り合う場として、県立長野図書館、長野県立歴史館、長野県信濃美術館、信州大学附属図書館が主催し、「信州 知の連携フォーラム」を開催するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 令和2年12月に採択された共創の場形成支援プログラムについては、幹事機関として、3大学26企業等の産学共創コンソーシアム（「小規模循環型リビングイノベーション共創拠点」）を形成し、事業を推進している。育成型期間終了後の本格型への移行を見据えて、プロジェクトリーダーを中心として、参画研究者・企業とのヒアリング、取組のターゲットに関する調査等を通じて、拠点ビジョンの精緻化を行っている。長野県等と連携して運用するリビング・ラボ機能を活用し、長野県茅野市、松本市、白馬村等で、実証フィールド選定に向けた調査を推進している。（ユニット「先鋭研究領域の融合と頭脳循環による世界水準の国際教育研究拠点の形成」に関する取組）
- 全学横断特別教育プログラム「ライフクリエイター人材育成コース」「ストラテジー・デザイン人材養成コース」を設置して、AIを軸に、全学部の学生が協働して、課題の解決を目指す教育の準備を進めている。この事業は、それぞれ文部科学省の大型教育事業「知的集約型社会を支える人材育成事業」「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」に採択されている。（ユニット「先鋭研究領域の融合と頭脳循環による世界水準の国際教育研究拠点の形成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 事務職員の人材育成及び教員の経営企画能力向上に向けた研修の実施

理事、副学長等を講師として、これまで学部長補佐以上の教員等を対象に行っていた「教員を対象とした経営力を高める研修」の対象者に副課長級以上の事務職員を加え、学習管理システムeALPS教職員サイトに各講師の講義動画を掲載し、令和2年12月25日から令和3年3月31日までの期間で研修を実施している。また、主査級以下の職員にも広く受講を呼びかけ、全ての教職員が大学運営に係る問題意識を共有できる機会を提供している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、令和元年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 産学官連携拠点を核とした社会課題解決のための研究開発の推進

アクア・イノベーション拠点（JST COIプログラム）における、令和2年度の取組として、ウォータープラザ北九州において、防汚性が高く、薬品使用量削減が期待できる環境負荷の少ない開発膜（カーボンナノチューブ/ポリアミド複合RO（逆浸透）膜）の実証試験を行うとともに、海外実験施設（シンガポール、タイ）において海水淡水化のほか、排水再生システムの課題に取り組んでいる。さらに、水道圧でも造水可能な超低压RO膜による家庭用POU（Point of Use）浄水システムの研究も進めており、社会実装に向けた研究開発を加速させている。

○ 産学官連携拠点を核とした課題解決型人材の育成

産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）において、アドバンスド・リサーチ・アシスタント（ARA）として採用していた大学院生が修了後、大学発ベンチャーを起業し自社技術の強みを生かして、OPERAの研究開発に参画を開始している。都市圏人材のリカレント教育と地域企業定着を促す地方創生事業としてスタートした「信州100年企業創出プログラム」では、80%以上の人材が、修了後も地域の企業との関係性を継続（就職・複業・業務委託等）しており、事業成果の学会発表・キャリア教育の講師、技術相談あるいは大学から事業協力を求めるなど、高密度な組織対組織の産学連携事業の実施を進めている。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 臨床研究支援体制の整備

令和2年7月に、競争的資金及び企業からの資金を研究者が獲得する支援を目的として、臨床研究支援センター内に新たに研究企画支援部門を設置するなど臨床研究支援体制を強化するとともに、治験審査体制の適正化を図るため、治験審査委員会の構成を見直し、これまで少なかった女性委員の増加を図り、令和2年4月より新たに委員17名のうち6名を女性委員としている。

（診療面）

○ がんに関する高度な臨床研究及び診療体制の強化

令和2年7月に、がんゲノム医療体制の一環として信州がんセンター内にがんゲノム医療部を立ち上げるとともに、臨床検査部の協力の下、がん患者のがん組織・遺伝子を保存し、将来的に院内外の研究者の医学・薬学研究に活用する「バイオバンク信州」を設立するなど、がんゲノム医療体制の強化している。

（運営面）

○ ベッドコントロール室の設置

令和3年度からの病棟改修の実施にあたり、入院患者数を維持し、病床運営を最適化することを目的として、新たにベッドコントロール室を設置している。

○ 広報体制の拡充

病院における広報の重要性について再検討を行い、医療圏での患者の減少に対応し、より多くの患者に選ばれる医療機関を目指して、令和2年7月に広報企画室を設置するなど広報体制を充実している。

○ 病院長のコミットメントによるコストダウン交渉

新たな取組として、価格交渉に際してはディーラーがメーカーとの折衝を行う時間的猶予を作り、状況に応じてメーカーの同席を求めつつ、病院長のコミットメントの下、病院としてのコストダウン達成に向けた意思を明確に示すために、病院長が価格交渉に関与する「病院長協力型」の価格交渉手法を導入して取り組んでいる。